

## < 光を信じ、光に歩む >

ヨハネ 12:44-50

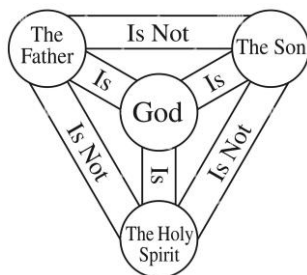
ユダヤ人シナゴグに行ったときの話

「わたしを信じる者は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を信じるのです。  
また、わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのです。」 (ヨハネ 12:44)



イエスを信じる者は神を信じる。イエスを見る者は神を見ている…なんて、ユダヤ人には受け入れがたいこと。

けれども、後に多くのユダヤ人がイエスを信じた。今まで信じて来た旧約聖書の神が、父・子・聖霊なる神なんだと知った。



**三位一体** (神は人ではないので人格とは言わず、代わりに「位格」と言う)

父は父、子は子、聖霊は聖霊であり続け、父が子になったり、子が聖霊になったりと互いが別の位格に変化することはない。それぞれが一つの神。本質は一つで、完全な一致を保ち、完全な信頼関係にある。

父と子と聖霊は、神を捨てた人間を見捨てられなくて、何としても取り戻したくて、救い出されたくて、完全に一致した信頼関係の中で、全力で人の救いのために働かれた。  
この神が愛。

私たちは、愛である神の完全な一致と信頼の関係をともに生きようと招かれている。

「わたしを信じる者は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を信じるのです。…」(12:44)

この信頼と一致の中に永遠のいのちがあるから。

永遠のいのちは、神との関係が回復されて、信頼と一致を生きることにある。

「わたしは光として世にきました。私を信じる者が、だれも闇の中にとどまることのないように  
するためです。」 (11:46)

「だれか、わたしのことばを聞いてそれを守らない者がいても、わたしはその人をさばきませ  
ん。わたしが来たのは世を裁くためではなく、世を救うためだからです。」 (11:47)

神の教えを守らなくてもさばかれない！？

「わたしを拒み、わたしのことばを受け入れない者には、その人を裁くものがあります。」

→ 「その人をさばくものがある」＝「その人をさばくものがくつついている」

闇の中で光を見て、信じて、光に照らされて生きる。主イエスを見ると聖くて正しい神が赦してくだ  
さる神だと分かる。自分の罪深さが分かる。自分が赦されて生かされていることが分かる。  
救われてもお…という、今ここにある、心や体、置かれた状況が闇であることがあるが、闇の中に  
閉じ込められたわけじゃない。私たちには、イエス様の救いがある、光が私たちの人生そのもの  
に灯っているからこそ、私たちは今でも主イエスを信じて神とともに、今ここで永遠のいのちを歩ん  
でいくことができる。

**大切なのは、「赦すために来た。」と言われるイエス様のことばを信じ、  
自分事として受け入れること**

映画 「シンドラーのリスト」